

光鯨会だより

第36号 [令和6年8月]

発行 | 光鯨会
会長 | 小野 徹郎 (S43)
本部長 | 井戸田 秀樹 (S58)
連絡先 | 濱田 晋一 (DH22)

✉ koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp

HP | <http://koukokai.jp/home>

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内
()内の数字は卒業年次を示します。またM:修士、D:博士 での卒業になります。

I | 会長挨拶

□会長挨拶 「傘寿を迎えて」

小野 徹郎 (S43) 光鯨会会長／名古屋工業大学名誉教授



新緑の緑もすっかり濃くなってきました。季節の移り変わりの早さにはいつも驚かされますが、会員の皆様にはそれぞれのお立場でご活躍のことと思います。

今年は能登半島地震、日航機事故と波乱の幕開けになりましたがそれぞれの事象は我々に多くの教訓を残しています。能登半島地震では過疎地の問題が浮彫りになりました。一方避難所支援では本学科の北川先生の活躍がマスコミに取り上げられ頼もしく思いました。日航機事故では日頃の訓練の重要性を改めて問われました。

世界ではロシアのウクライナ侵攻、ガザ地区での紛争と止むことのない対立が続く国連の無力化が浮き彫りになっています。戦争は始めるのは簡単ですが終わらせるのが難しいことが改めて認識されます。こうした中、我が国でも軍備増強の声が高くなっています。戦争の愚かしさはトルストイの『犠牲と釣り合う平和はない』と言う言葉が示しています。

私事ですが今年傘寿を迎えます。80年間の人生を振り返ると周囲の人に助けられながらなんとか幸せな人生を歩んできたと思います。母校の恩師との出会いが私の人生を決

てくれました。また独立して研究室を持つてからは研究室の学生に大きな力を貰いました。自分として頑張ってきた部分もありますが一人では何もしえなかったと思います。人間一人の人生で成し得ることは多くはないかもしれません。ささやかな積み重ねで、すこしずつ前に進めることが重要だと思っています。

本学建築学科は来年で120周年を迎えます。その歴史の中で多くの卒業生を輩出してきました。一人一人の卒業生の努力とその繋がりの中で日本の建築界で確固たる立場を形作ってきました。伝統は個々のささやかな努力と継続の積み重ねの結果であると思います。その重みは一朝一夕に無くなることはありません。我々は名古屋工業大学に学んだことを誇りに思い、日々過ごしていきたいものです。また伝統をさらに進めていくにはそこに学ぶ学生や先生方の新しい挑戦に期待したいものです。

こうした伝統を支えるもう一方の柱が同窓会であり、光鯨会です。卒業生諸氏は光鯨会の伝統の恩恵を少なからず享受してきたはずで、社会に出て年を経るに従って同窓の繋がりがありがたみを一層強く感じられるものです。会としては現役への支援や大学への支援を継続していきたいと思ひます。そのためにも卒業生の会費と寄付を今後とも宜しくお願いいたします。

II | 大学は今

□分野長挨拶

佐藤 篤司 (H10) 建築・デザイン分野長／名古屋工業大学教授

今年度も継続して分野長を仰せつかっている佐藤篤司です。まず、現在の建築・デザイン分野の教員体制について報告させていただきます。建築構造4名・建築材料2名・建築環境1名・建築計画3名・建築設計4名・歴史意匠1名・デザイン3名の合計18名になります。また、研究室数は16という状況です。他分野(他学科)と比較すると教員比率が充足できていない状態が続いています。ただし、先に示した教員数にはクロスアポイント教員(経済産業省と文部科学省の進める制度)が3名含まれており、実務で豊かな経験と業績を有する建築家から教育を受けられる体制が整えられています。他分野とは異なる大きな特徴の一つといえます。

次に、今年度の新入生について報告します。建築・デザイン分野に入学した学生数は74名であり、内3名が留学生になります。ここに示す写真は新入生ガイダンスの様子であり、

毎年感じるのですが、新入生からはこれから始まる大学生活を楽しみしている雰囲気が強く伝わってきました。

在学生の活動としては、昨年度から試みている学生主体によるデザインスタジオ(製図室)の運用管理であり、学生が自主的に学生代表を決めて運営をするなど、積極的に活用しているといえます。建築設計では三次元モデリングが主流になってきており、模型も3Dプリンターを利用することが多くなり、自由な形態を試行錯誤する学生が増えています。今年度は3Dプリンターを増設することで、学生の創作活動がもっと加速することを期待しています。



新入生ガイダンスの様子

□卒業生の活躍

北川 啓介 (H8) 名古屋工業大学教授 北川 珠美 (H10) 名古屋工業大学研究員

能登半島地震発災の翌日から、石川県内外の被災地全域からインスタントハウスをご要請いただいては、名古屋工業大学基金への国内外からの6300万円を超える温かいご寄付を原資に、一日でも一時間でも早く少しでも快適な生活をお送りいただけますよう動いてまいりました。一月頭から三月下旬まで、平日も週末も、昼も夜も関係なく、能登半島全域にインスタントハウスをお届けしてまいりました。近い方を亡くされて心身ともに疲弊されている方も少なくない皆様の避難所での生活も、屋根がついている屋内用インスタントハウスのご導入後に、感染症発生と低体温症状が低減した、との医療チームからの報告もございました。ご自宅や職場を損壊したり焼失したりされた皆様が、発災直後から、夜中でも、フラッシュバックで「家が怖い」「家が襲ってくる」とお話されていることに、建築分野のひとりとして極めて居た堪れなかったのですが、インスタントハウスをお届けして以降、お子様もご高齢の方も、間取りや装飾もデザインして、ご自身の思うままに愛着ある「おうち」とお話されており、その姿に自然と涙が溢れてまいります。あっと

いう間に半年が経ち、被災地はまだまだその日を生きること精一杯のところ、建築学から被災者の皆様へ未来への希望をお届けできている実感もあり、使いこなされている様子に、「もう建築家ですね!」とお話しますとニコツとしてくださいます。

今夏からは国内外の政府からのご要請で、順次、世界各地の難民キャンプへもインスタントハウスをお届けしてまいります。国内外で家に困っておられる皆様へ寄り添って、名工大の一員として最大限に尽力して参ります。貴重なご支援を賜っておりますことに、あらためて心より深く感謝申し上げます。



能登半島で使いこなしていただいているインスタントハウス

□退任挨拶

須藤 美音 東京都市大学准教授

2010年より名古屋工業大学で14年間教育・研究活動に従事させていただきましたが、2024年3月末をもちまして退職いたしました。光鮪会の皆様には、大学の講義、研究活動、学生の就職活動など様々な場面で多大なるご協力、ご指導をいただき、本当にありがとうございました。

名工大では、堀越哲美先生、水谷章夫先生、小松義典先生とともに環境分野の教育・研究に携わっており、建築の専門科目として「建築環境工学」、「建築設備設計学」、「建築環境実験」、「建築設計製図」などを担当しました。研究室の活動として、学部生53名、修士生20名の卒論・修論指導に携わり、研究の楽しさ、難しさをともに経験しました。研究室の学生とは鹿児島、高知、盛岡、金沢、北海道、福井と毎年合宿に行き、たくさんお酒を飲みました。残念ながらコロナ禍は中止となりましたが、2023年に修士2年の学生が主導で合宿を企画してくれて、復活できたことが嬉しい思い出です。

最後に、近年の名工大での業務の実績として、「ART FUL CAMPUS」を紹介させていただきます。2021年4月から、構内の広場やホールなどをアート作品で彩るAR

TFUL CAMPUSプロジェクトの構想が始まりました。名工大のキャンパスでは建物・設備の老朽化が進み、目下の修繕費の工面も難しい状況下で、プロジェクトが始動しました。当初は愛知県芸術大学により制作されたアート作品をキャンパスに展示するというシンプルな計画でしたが、名工大に溢れる様々な素材や技術を活用したアート作品の制作、音楽・美術のワークショップの実施、両学の共同制作、共同研究など多岐にわたるプロジェクトへと発展していきました。現在はおおよそ40点のアート作品が学内に展示されており、美術・音楽などの講義科目も設置され、日常的にアートに触れることのできる環境が整備されつつあります。

多くの経験や出会いのあった楽しい14年間でした。こころより感謝申し上げます。



III | 卒業生は今

鶴飼 直哉 (H31) 大和ハウス工業(株)

2019年3月に学部を卒業後、大和ハウス工業(株)に入社し今年で6年目です。入社後は、建築系部門の流通店舗事業部に配属となり、商業店舗、事務所、飲食店などの設計業務を行っています。

建築系部門の設計部では担当する用途が多岐に渡る分、つど専門的知識が求められ勉強の連続となりますが、経験した分だけ設計者としての幅が広がる部署だと思っています。

直近で担当している案件では、今年6月に岐阜県土岐市にて、自動車整備工場を併設した中古車カーディーラーが竣工しました。オープンスケジュールと費用対効果を考慮し、擁壁や側溝など既存の外構工作物を補修して利用する計画としています。

また近年では、働き方改革の一環として東海4県の設計部が名古屋の中部支社を拠点として活動しています。集約化により、設計として経験出来る規模、用途に差が生じにくくなったと実感しています。

まだまだ世間からは住宅の認識が強い会社だとは思いますが、建築系で認知度を上げていく一員として日々業務に励んでいきたいと思っています。



土岐市に竣工した中古車カーディーラー

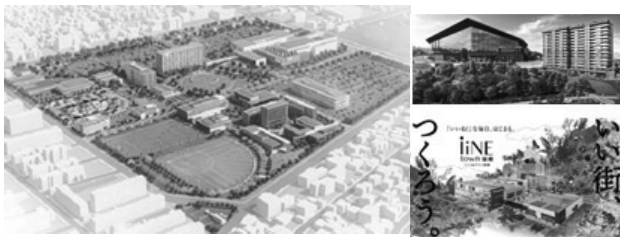
柴田 篤宏 (H20) 中部電力(株)

2008年3月に建築・デザイン工学科を卒業後、大学院を経て中部電力(株)に入社し、15年目です。入社後は送変電や水力、火力建物の設計・建設・維持管理業務に従事し、現在は新規事業開発部署に所属しています。非常に多様な業務経験をしてきました。

例えば再生可能エネルギーや防災に関わる技術や制度、事業体系等、入社後から現在までエネルギー事業を取り巻く環境は大きく変化しました。その中において当社事業創造本部は新規事業開発を推進し、電気自動車等の電力周辺事業は勿論、医療や食、水道といった皆さまから見た当社には馴染みのない事業領域にも進出しています。私の業務である「まちづくり」も、その新規事業のひとつです。名古屋競馬場跡地の再開発事業をはじめ、(株)日本エスコンや中電不動産(株)等のグ

ループ会社とも一体となり、環境に優しく安心安全で地域に寄り添った、当社グループならではのまちづくりを模索しています。

自分と同じくこの地域に育ててもらった当社において、いかにして地域に、そして当社グループに価値を与えられるか。大学で得た知識を目一杯活用して、自らの存在感を示すべく力戦奮闘しています。



田淵 大成 (R4) (株)奥村組

今年度で奥村組に入社して3年目となります。1年目は、約半年間、本社で研修を受けた後、愛知県春日井市にある物流倉庫の新築現場にて現場管理を行いました。配属当初は日々分からないことが多く、聞き慣れない単語ばかりで作業員さんに話しかけられ、苦労しました。

2年目より三重県四日市市にあるオフィスビルの新築現場に配属されました。1つ目の現場とは異なり、街中の狭小の現場で車両の搬入ひとつとっても勝手が違う為、これもまた苦労しました。ですが、①実際に建築物が出来上がっていく様を間近で見れる点、②業務のやり方ひとつで多くの人間に不利益をもたらしてしまうという責任にやりがいと面白さを感じております。

3年目になり任される仕事も増え、苦勞も多いですが、この苦勞がいつか実を結び、現場所長を任されるようになるまで頑張りたいと思います。



愛知県春日井市 某物流倉庫

三重県四日市市 某オフィスビル

大学院修士課程を修了後、清水建設に入社、名古屋支店にて工場・事務所・病院など様々な用途の建物の設備設計を担当しています。途中育児休職を2度経て、早いもので17年目となりました。

設備設計は、水や空気などの建物を利用する人の快適性を確保するための設計提案と同時に、建物運用時のエネルギーに配慮した設計とすることでCN(カーボンニュートラル)の実現に向けた設計提案を行っています。

昨年度、社内の公募型研修において、環境先進国といわれるドイツやSDGsランキング上位国のデンマークにおけるCN 実現に向けての動向を学び、設計提案に活かしたいと考え、渡欧してきました。

デンマークでは多くの人がマイボトルを持ち歩き地下水を補給できる公共施設が多かったり、自転車での

通勤がしやすい街づくりがされていたりと、国民1人1人が環境問題を自分ごととして捉えている印象を受けました。設計事務所訪問では、設計の初期段階からLC AやEPDを意識した設計をしていること、設計者のSDGs達成への意識が何より大切であることなど、様々なことを改めて考えるよい学びの機会となりました。世界に目を向け様々な価値観に出会ったことで今後の成長への活力にもなりました。



公共交通機関や自転車を使用する人が多い通勤風景(デンマークにて)

高木 麻衣 (R2) 名古屋市役所

学部を卒業後、名古屋市役所に建築技師として入庁し、現在5年目です。配属先の住宅都市局営繕課では、市設建築物の営繕業務を行っています。

私自身は今までに保育園、スポーツセンター、保健センター、環境事業所など様々な施設の設計監理・工事監理を行ってきました。工事内容も新築、防水・外壁改修、取りこわし、内装改修も含めた建物全体のリニューアル改修と多岐にわたるため幅広い知識が必要となります。特に改修工事は施設を使用しながら改修することも多く、利用者動線と工事動線の分離や、施設管理者や施設所管部署、工事業者との調整等、非常に大変ではありますが、同時にやりがいも感じています。自分

で設計から工事まで担当した物件が完成した際は、とても達成感があります。

昨年度から本庁勤務ではなく、新築工事の現場事務所に先輩と2人で常駐勤務しています。出張で現場に行っているだけではわからない日々の現場の動きや、細かい現場の納まり等、非常に勉強になっています。入庁5年目となり、1年目と比べれば色々知識がついてきた今でも、まだまだ知らないことやわからないことばかりで、日々勉強しながら業務を進めています。

今後もよりよい施設整備に貢献していけるよう、知識を深め、経験を積み、精一杯業務に取り組んでいきたいと思っています。

□会員の日本建築学会各賞受賞、作品選集掲載

○2024 年日本建築学会作品選奨

『石川県立図書館』 仙田 満 ((株) 環境デザイン研究所会長) / 『santo』 前田 圭介 ((株) UID 代表取締役/近畿大学教授)

○2024 年日本建築学会作品選集新人賞

『7 部屋のコートハウス』 葛島 隆之 (葛島隆之建築設計事務所) / 『土蔵と補う増築』 澤 秀俊 (澤秀俊設計環境代表)

□2023年度年会費納入者、新規終身会員加入者、寄付者 2023/12/5~2024/6/20にお手配くださった方を記載(敬称略)

年会費納入者 [S44] 天野 政明、[S45] 早川 良貴、[S49] 南 源司、[S51] 武田 雄二、[S54] 濱村 一雄、豊島 直人、[S55] 工藤 高宏、[S56] 瀬沼 則彦、[S57] 小花 保夫、田邊 太一、[S58] 石川 誠、岡 康生、渡邊 陽平、酒井 正樹、[S59] 酒井 賢、田口 亮一、[S60] 豊嶋 卓也、[S61] 坂本 拓三、渡辺 太海、[S63] 河尻 出、[S64] 石垣 秀圭、富田 昌志、根本 健一、[H2] 大上 純一、玉置 昌孝、鶴田 徹、[H3] 杉浦 光彦、[H4] 石原 清孝、[H5] 沖本 弘、岩島 夏哉、伊藤 篤之、[H8] 河登 健太郎、[H11] 太田 綾子、小島 邦裕、淀野 さやか、平出 義則、[H13] 伊藤 浩資、[H14] 鈴木 夕季、[H16] 田尻 千倫、[H18] 水野 秀昭、[H20] 池田 光太郎、[H21] 小川 和大、[H22] 水野 真宏、[H25] 金田 美世、石原 昌紀、[H26] 木下 春香、小林 恵、大矢 知良、[H27] 杉岡 敬幸、[H31] 服部 美衣、[R2] 柴田 湖々、吉田 結衣、板野 遥、[R5] 橋爪 咲、平井 龍也、藤本 晃希、[R6] 恩地 大暉、後藤 義喜、田中 千裕、都筑 裕人
新規終身会員加入者 [S56] 高藤 勝己、[S61] 竹下 均、[H5] 山本 睦生
寄附者 [S36] 児玉 和彦、渡辺 誠一、[S43] 内藤 克己、藤本 暁吉、[S54] 濱村 一雄
※鯰ボックスへの寄付は随時受け付けております。

□関東支部

山形 睦乃 (H29) 清水建設(株)

学部を卒業後、清水建設に施工管理で入社し、今年で7年目になります。入社から4年目までは名古屋支店静岡営業所で、ホテルと体育館の現場を経験しました。初配属のホテルの現場では、内装工事を着手から竣工まで担当しました。富士山が見える大浴場やレストランがあるシティリゾートホテルで、様々な種類の仕上に触れることができました。品質基準としての精度だけでなく、最終仕上物の納まりまで考慮した精度で各工程を管理する大切さを学びました。

現在は、東京支店で中小規模現場の図面工務をしています。施工図・製作図を作り込む業務で、スケッチを描いて納まり検討をする機会が現場にいる時よりも増えました。現場で経験したことが繋がる面と違う視点が必要な面があり、ひとつひとつの納まりの意味への考えが深まり気づきの多い日々です。

最近、入社時よりも「女性だから」という理由で注目されることが減ったように感じ、嬉しく思います。毎年女性の後輩も増え、女性施工管理者の活躍が広がっていることを実感します。私自身は、今後ライフステージの変化があって

も施工管理に携わり続けられる働き方や役割を模索しています。



写真：ホテルのレストランと露天風呂

□関西支部

木全 瑛二 (H22) (株)竹中工務店

竹中工務店に建築設計職で2012年に入社しました。最初の担当作品はOJTにて、設計者としてではなく施工者として担当した「竹中大工道具館新館」です。施主・設計者・施工者・職人が一丸となり、切磋琢磨して完成しました。建築は一人ではつくることができない、関係者一人ひとりが本気で全力を注がなければならない、と強く感じた貴重な体験でした。その後は設計部にて「南海和歌山市駅ビル+駅舎+コンコース」「大丸心齋橋店本館+心齋橋PARCO」を設計し、現在は「(仮称)JR三ノ宮新駅ビル」を担当しています。思い返すと建築だけでなく都市・まちづくりや歴史・文化を日々考えながら、次世代に残すべき建築の創出を目標に奮闘してきました。

卒業の際「安心してしまわないこと」という言葉

を恩師の若山滋先生に頂き、今も心に留めています。これまでの数少ない実績に満足せずに、もっとできることはないか、を問い続けこれからも建築に向き合っていきます。また、馴染みのなかった関西で生まれた新たな繋がりも楽しんでいこうと思います。



心齋橋 PARCO (左) と大丸心齋橋店本館 (右)

IV | 光鯨会は今

□工業会 名古屋支部報告

小山 裕康 (S54) (株)近藤組



全学同窓会である名古屋工業会名古屋支部の運営を光鯨会が行うことになり早1年、参加された会員の方に喜んでいただけるようイベントの企画をして参りました。またその開催に際しましては、光鯨会幹事を始め多くの皆様にご協力していただいております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

昨年の春の総会では、「重要文化財名古屋テレビ塔と久屋大通公園の整備」というテーマで名古屋まちづくり公社中園様(S58)、日建設計杉浦様(H3)、名工大夏目先生(H5)、名古屋市横井様(H10)による講演をお願いしました。また光鯨会との同時開催となる秋の見学会では、昨年の大河ドラマに因み、徳川家康公ゆかりの岡崎城をはじめ岡崎・浜松方面に行き、鈴木禎次設計の岡崎信用金庫資料館の見学も行い、大人の修学旅行を満喫しました。両イベントともアンケートで参加者から大変良い評価をいただきました。

今年の新年互礼会は、元旦の能登半島地震直後の開催となり、その場で北川先生のインスタントハウスの紹介と義援金の募集を行いました。またアトラクションとして、名工大アカペラサークルの皆さんに素敵なハーモニーを披露してもらいました。どのイベントも一昨年までのコロナ禍とは違い、久しぶりに顔を合わせてのコミュニケーションを図ることが出来、参加された皆様に大変喜んでいただきました。今年度も魅力的な企画をして参ります。積極的な参加をお願い申し上げます。

名古屋工業会は、上記のような活動や大学に支援などを行い、学科や年齢を超えたネットワークの形成やこれらを通じて会員相互が自己啓発されることを主眼としています。皆様方には当会の活動と趣旨を良くご理解され、是非とも当会にご入会いただくことをお願い申し上げます(名古屋工業会HP参照 現在の新入生は入学と同時にその殆どが終身会員になります)。光鯨会、名古屋工業会共に同窓生の絆を深め、新たな出合いやアイデアを生む懸け橋となるものと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

宇佐美 智伯 (H6) 名古屋市役所

昨年度に引き続き、今年度まで名古屋工業会名古屋支部の庶務幹事を務めさせていただいております。光鯨会の皆さまには何かとお力添えいただき、誠にありがとうございます。私からは、今年度名古屋支部の企画についてご紹介させていただきます。

下記1の支部総会終了後には、講演会を開催しました。講師は名古屋工業大学名誉教授麓和善先生(S54)、名古屋学院大学名誉教授井澤知旦先生(S51)で、公開講座の一般受講申込が定員の100名を大幅に超えるほどの盛況ぶりでした。下記2の防災セミナーは初めての試みで、講師は名古屋工業大学井戸田秀樹先生(S58)と北川啓介先生(H8)に加え元消防研修センター所長の山田常圭様(S52)の御三方をお招きして開催する、光鯨会ならではの企画です。下記3の見学研修会は、常滑・半田方面を予定しており、特に名工大OBも関わったセントレアの取組や魅力を知っていただく場となれば、と考えております。下記4の新年互礼会では、光鯨会のみならず他の単科会会員とも交流できる貴重な機会となっております。いずれの

行事も基本的には名古屋エリア在住もしくは在勤の会員向けとはなりますが、今後の募集の際には、ふるってのご参加をお待ちしております！

令和6年度 名古屋工業会名古屋支部の行事

1 名古屋支部総会・講演会・懇親会

開催日：令和6年6月22日(土)

場所：名古屋工業大学内

講演内容：「日本城郭史上の名城(犬山城と名古屋城)と名古屋の都心まちづくり」(名工大全学公開講座と共催)

2 防災セミナー

開催日：令和6年9月21日(土)

場所：名古屋工業大学内

講演内容：「南海トラフ地震への備え～ 令和6年能登半島地震を踏まえて～」(名工大高度防災工学研究センターと共催)

3 見学研修会

開催日：令和6年11月9日(土)

場所：常滑・半田方面(見学先：セントレア、INAXライブミュージアムなど)

4 東海地区新年互礼会

開催日：令和7年1月11日(土)

場所：名古屋工業大学大学会館

□本部だより

羽津本 好弘 (S60) 中電不動産(株)



このたび、松田前幹事長の後を受けて、本部幹事長を務めさせていただくことになりましたS60年卒の羽津本です。

大学卒業後、これまで多くの光鯨会会員の皆様とのご縁を賜り、社会人生活を支えて頂きました。心より感謝申し上げます。振り返ってみますと、20代に幹事、50代で副幹事長を務めさせて頂き、そして今回、60代にて幹事長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

さて、5月10日には見学会が、翌11日には評議員会、総会、引き続いて懇親会が開催され、多数の方にご参

加頂きました。今年度の活動が無事スタートでき、安堵しております。懇親会には、大先輩から今春の学部入学生に至るまで幅広い年代の方にご参加頂き、S38年卒の長谷川様のご指導のもと建築科歌の臥竜長夜を合唱するなど、世代間を超えた交流の場となりました。

昨今では、大学をはじめとした同窓会活動の継続が困難になってきたとの声を聞きます。光鯨会がこれまで通り会員の皆様や次世代を担う学生会員の方にとりまして意義のある会となるよう、微力ながら尽力させて頂きます。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

□春の見学会

田中 康範 (H2) 日建設計コンストラクション・マネジメント(株)

春の見学会は、総会前日の5月10日(金曜日)に「栄地区の開発動向から見る中日ビルとTIAD」と題して開催され、56名ものご参加をいただきました。中日ビルとTIADの魅力を探る機会となりました。第一部の説明会では、都市研究所スペース社長の浅野健氏(H6)から名古屋都心のまちづくりの動向と栄地区の計画内容について、TIADの設計施工を担当した清水建設の設計部門に所属する磯和孝史氏(H15)からTIADの意匠計画の特徴について、そして中部日本ビルディング統括マネージャーの西山雄一郎氏から中日ビルの建築的視点の苦労話を聞くことができました。第二部では、中日ビルの中日ホールや未使用のオフィス(テナント入居前のA工事仕様状態)、TIADの宴会場・チャペル・レストランを見学しました。また、見学を案内いただいたTIADセールスマネージャーの坪井氏から、お父様が光鯨会の

先輩との説明もいただき、ちょっとした驚きもありました。

今回見学した施設でも、多くの光鯨会の方が関与されていました。栄地区の開発が進む中で、皆様の更なるご活躍を期待しております。



□前幹事長挨拶

松田 浩司 (S60) 大成建設(株)



2022年度から二年間幹事長を務めさせていただきました松田です。幹事会はコロナ全盛期と違いリアルとZoomのハイブリッド会議で開催できました。

一年目は、見学会も春はイオンモールノリタケ、秋は伊勢神宮、OBOG会もリアル開催できましたが、実は5月から、杖が必要な坐骨神経痛となり4ヶ月はZoom参加、9月には無事復活しリアル参加ができ、健康のありがたみを深く感じた年でした。

二年目は、リアル参加する幹事も増え、春の見学会は、屋形舟での“堀川クルーズ”で久々の飲食もあり大盛況でした。秋の見学会は“どうする家康”にからみ岡崎・浜松まで出かけ充実していました。

楽しいことが好きな性分ですので、幹事、会員、学生の皆さんと直接お会いでき、幹事長を楽しませていただいたと感謝しております。ご奉公も終わりかと思っていましたら、工業会の連絡幹事を仰せつかり、母校の繁栄と卒業生皆様のご活躍を応援できるようもう少し尽力させていただく所存です。

卒業後、建設会社の施工と購買を経験し、営業にきて10年経ちましたが、いつの時代もやりがいはあるが苦悩の多い建設業界において、もっとエンゲージメントを高めて働ける環境を思案してみたいと思っています。光鯨会の幹事、会員の皆様、二年間ありがとうございました。

□関東支部だより

吉井 正行 (S58) 清水建設(株)

関東支部では、2年ごとにゼネコン5社持ち回りで支部役員会、総会等の幹事を行っています。今年は清水建設が幹事会社2年目となります。

さて、今年の光鱈会全国大会は東京での開催です。当日の構成は①エクスカーション、②関東支部総会、③全国大会懇親会となっています。エクスカーションは東京タワー入場と昨年竣工した現在日本一の高さを誇る麻布台ヒルズJPタワー(高さ330m、64階建て)周辺の散策を考えています。東京タワーメインデッキからは麻布台ヒルズも一望できます。麻布台ヒルズ周辺にも有名建築家の作品を見ることができます。当初は麻布台ヒルズ33階の「スカイロビー」から東京タワーを含む東京都心を眺める予定でした。ところが「スカイロビー」の一般公開が4月で終了したため東京タワーからの眺望を楽しむ会としました。

その後地下鉄で大手町に移動し大手町サンケイプラザで総会、懇親会を行う予定です。同伴者の参加も歓迎いたします。関東以外からも多くの方の参加をお待ちしています。参加申し込みにつ

いては同封の「2024年度 光鱈会全国大会 ご案内」をご参照ください。

話は前後しますが関東支部では4月19日に第1回支部役員会を行いました。今後も年内3回ほど役員会を行い全国大会を盛り上げるべく議論を重ねていきます。



麻布台ヒルズ



芝 増上寺

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目 16-1-14 号

清水建設(株) (090-2724-0319)

関東支部長 吉井正行 (S58)、事務局 掃部顕吾 (H12)

副支部長 鈴木孝彦 (S59)、宇佐美徹 (H3)

□関西支部だより

神澤 宏明 (S58) (株)鴻池組

本年度より関西支部長を拝命しております神澤と申します。関西支部の令和6年度前半の活動内容について紹介いたします。

まず、2/2には、第一回の幹事会と共にミニ講演会を開催しました。幹事会では、1/1に発生した能登半島地震の被災地に向けた「インスタントハウス」設置活動への支援を行うため、母校への寄付を決定しました。ミニ講演会では、新支部長就任時の恒例となっております自己紹介を兼ねての『自然災害と構造設計』と題した講演を行いました。

つづく、4/5の第二回の幹事会とミニ講演会では、支部総会について議論を行うと共に、母校で長年教壇に立たれ、現在、名城大学で教鞭をとられる市之瀬敏勝先生をお招きし、『米国・ニューギランドと比較した日本の建物の耐震性』をテーマに、難しくなりがちな構造についての話題を、模型などを交えて、解りやすくお話していただきました。6/7の第三回幹事会では、支部総会の候補地と総会会場についての議論を深めるとともに、ミニ講演会では、母校を卒業後、この4月に大同大学の学長に就任されました渡邊慎一先生をお招きしました。『「炬燵」を真面目に科学しました』を

演目に、先生がライフワークとして取り組まれてきた炬燵について、まじめで楽しいお話を伺うことができました。

最後に、本年度の関西支部総会は10/19開催予定で、今年9月に先行街びらきが予定されている「グラングリーン大阪(うめきた二期)」をメインターゲットに企画を練っているところです。会員皆様のご来訪をお待ちしております。



熱演する渡邊先生 (6/7：中央電気倶楽部)

〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町 3-6-1

株式会社 鴻池組

関西支部長 神澤宏明 (S58)、副支部長 竹内健一 (H3)

事務局長 寺田憲二 (H25)、連絡担当者 山崎航一 (H25)